

岐阜県立多治見北高等学校同窓会 令和 7 年度第 1 回役員会

1. 会長挨拶 加藤文雄

(1) 多治見修道院の耐震調査の寄付金募集について

3 年前に神言修道会による解体が決定しておりますが、新たな進展がございました。高木名誉顧問（多治見市長）から、本件に関する詳細なご説明をいただきます。

(2) 関西支部総会の報告

先日開催された関西支部総会には、田中校長をはじめ、本部役員、名誉会長の皆様にもご出席いただき、盛会のうちに終了いたしました。ご参加いただいた皆様に感謝申し上げます。

(3) 北辰会基金について

北辰会基金についても、本日の議題として取り上げ、今後の運営方針について協議いたします。

(4) 令和 7 年度事業について

本役員会は、今後も定例通り 3 の倍数月（3 月、6 月、9 月、12 月）の第 3 日曜日に開催し、同窓会活動について審議してまいります。

今年度も様々な事業を計画しており、会員皆様のご理解とご協力が不可欠です。また、多治見修道院の保存問題や北辰会基金の運営など、同窓会として取り組むべき重要な課題が山積しております。役員一同、引き続き真摯に議論を重ねてまいります。

2. 学校長挨拶及び学校報告 田中誠二

25 回生の田中です。本年 4 月に校長として赴任いたしました。本日は、母校である多治見北高校の最近の様子と生徒たちの活発な活動についてご報告させていただきます。

(1) DX（デジタルトランスフォーメーション）教育の推進

文部科学省の指定事業「DX ハイスクール」として 2 年目を迎え、デジタル教育環境の整備を積極的に進めております。

- DX サークルの設立：生徒の自主性を尊重し、13 の DX サークルを設立しました。1、2 年生を中心に 120 名が参加し、放課後に自由な発想で活動しています。
- 生徒による「多治見北 3D 化計画」：3 年生がドローンを活用して体育館を空撮し、3D プリンターで精巧な模型を製作しました。この創造的な取り組みは、探求発表会で披露され、後輩たちにも引き継がれています。

(2) 多角的な視点を育む教育活動

デジタル化を推進する一方で、学びの本質を多角的に考察する機会を設けております。

- アンチデジタル派の視点：東京大学の酒井先生を招聘し、「紙ベースでの学び」の重要性について講演いただきました。
- 生徒の主体的な学び：講演会后、生徒たちから多くの質問が寄せられ、放課後も熱心な質疑応答が続きました。これは、物事を多角的に捉え、主体的に学ぶ本校らしい生徒の姿であると自負しております。

(3) 図書館活動と探求学習

- 図書館の功績：図書館の優れた活動が認められ、昨年「文部科学大臣表彰」を受賞いたしました。これは本校の大きな誇りです。

- ・ 探求学習の充実：2 年生後期から行われる「探求学習」では、生徒が自身の興味関心を深く掘り下げており、将来の進路に繋がる重要な活動として位置づけております。

(4)部活動の活躍

- ・ 放送部の快挙：放送部は、全国放送コンクールに 10 年連続で出場（3 部門）を果たしました。

生徒たちは、同窓会の皆様のご支援のもと、多方面で生き生きと活動しております。今後とも本校の教育活動にご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

3. 委員会

(1) 総務委員会 委員長 小林昌臣 副委員長 水野一正

①同窓会史の記録事業

同窓会誌に関する記録事業につきましては、現在も継続して情報の収集と資料の集積を進めております。

②本部役員の異動 [資料 1]

【就任】名誉会長 田中誠二（R7 多治見北高校 校長）

【異動】

【退任】名誉会長 白石秀史（R6 多治見北高校 校長）東濃フロンティア高校へ赴任

(2) 財務委員会 委員長 春田宣康 副委員長 安藤正彦

本年 1 月以降、郵便振替を通じて 202 件、約 180 万 9 千円のご寄付を賜りました。コンビニエンスストアからの寄付金も同程度の額に上る見込みで、順調に推移しております。

先日、17 回生の同窓会でも寄付のお願いをいたしました。今後とも同窓会や学年の集まりの機会がございましたら、皆様からも積極的に寄付の呼びかけにご協力いただけますよう、お願い申し上げます。

(3) 事業委員会 委員長 飯田道広 副委員長 松島祥久

1. 虎渓公園・永保寺の清掃活動と講演会

日時：令和 7 年 11 月 16 日（日）

清掃活動：虎渓公園・永保寺周辺 8：30～9：40

講演会：とうしん学びの丘エール（予定）10：15～11：45

講演：現在調整中ですが、21 回生の粟田君にお願いする方向で進めております。

2. 多治見修道院建物調査実行委員会について 特別顧問 高木貴行 [資料 2]

1. これまでの経緯

- ・ 解体の決定：令和 4 年度、所有者である神言修道会は、理事会において修道院の解体方針を正式に決定しました。
- ・ 解体方針見直しへの働きかけ：私は県会議員時代から、南山の卒業生として、また市長就任後も、神言修道会に対し働きかけてまいりました。当初は困難を極めましたが、粘り強い交渉の結果、ようやく対話のテーブルに着いていただくことができました。

2. 課題と新たな動き

- 政教分離の原則：市が宗教法人に直接的な財政支援を行うことは「政教分離」の原則上、極めて困難です。
- 実行委員会の設立：この課題を乗り越えるため、この度、地域の皆様の声を結集する「実行委員会」が設立されました。観光協会をはじめとする 6 団体が有志で参加し、委員長には多治見北高校同窓会事業副委員長でもある松島氏（現・観光協会理事長）が就任されました。

3. 神言修道会の意向と今後のステップ

- 「保存」の約束はない：現時点では、神言修道会から建物を「残す」という明確な約束は得られていません。建物の解体方針はすでに決定されたものであり、方針見直しへの道りは容易ではありません。
- 調査の実施許可：しかし、今回の大きな進展として、建物の「耐震調査」と、保存する場合の「改修費用の算出」を行うことについて、神言修道会から許可をいただくことができました。
- 今後のプロセス：
 1. 調査費用の募金：まず、実行委員会が主体となり、この調査費用を募金で集めます。
 2. 調査と費用算出：調査結果と改修費用を基に、保存の実現可能性を検討します。
 3. 最終判断：調査結果や今後の活用案を含め、神言修道会にご理解をいただいた上で、初めて「保存」という最終的な方針決定を目指します。

4. 同窓会への協力をお願い

この取り組みの第一歩は、調査費用を集めることです。本日お集まりの皆様、そして多治見北高校の同窓生の皆様に、この趣旨をご理解いただき、募金へのご協力を心よりお願い申し上げます。

修道院は築 95 年を迎え、間もなく 100 周年という節目を迎えます。一度壊されてしまえば、二度と元には戻りません。皆様の思い出の場所を未来へ繋ぐため、この活動の輪を広げていただきたく存じます。

私自身、特別顧問として、また一人の市民として、この問題に真摯に取り組んでまいります。皆様の温かいご支援を、何卒よろしくお願い申し上げます。

【松島 事業委員会副委員長】

3 年前、観光協会が主体となり修道院保存運動を始めましたが、当時は頓挫しました。今回は神言修道会に認めていただき、実行委員会形式で寄付金を募集し、耐震調査を行うことになりました。

私は、実行委員長という大役を仰せつかりましたが、正直なところ、私のような者が寄付を募ることに不安も感じております。しかし、まずは調査研究のための資金集めに全力を尽くす所存です。

皆様のお力添えが不可欠です。「1000 万円出す」という方がいらっしゃれば、どこへでも飛んで参ります。皆様のご協力を心よりお願い申し上げます。

【桜井多治見市企画部長】

1. 本活動の目的と神言修道会からの許諾内容

この度の活動は、市長からの報告を補足する形となりますが、所有者である神言修道会様より、以下の 2 点について調査を行う許可をいただいております。

- 耐震診断の実施
- 保存する場合の改修費用（概算設計費を含む）の算出

なお、算出された改修費用が極めて高額になる場合、保存の実現可能性について改めて慎重に判断する必要があります。

2. 実行委員会の役割と資金調達

これらの調査は、新たに設立された「実行委員会」が主体となって実施します。調査費用は行政からの支出ではなく、広く寄付金を募って賄う計画です。神言修道会様からは、この寄付金を募るための広報活動についてもご理解とご許可をいただいております。

3. 募金の目標額と使途

目標額の達成に向け、実行委員会を通じて皆様に寄付を呼びかけてまいります。

- ・ 目標額：5,000 万円
- ・ 主な内訳：
 - 耐震調査費用：2,200 万円
 - 改修費用算出のための概算設計費用：2,000 万円 + α

4. スケジュール

- ・ 募金開始時期： 本年 7 月中下旬を予定
 - ・ 募金期間： 来年 2 月までを目標
- この期間内に 5,000 万円の達成を目指し、活動を展開してまいります。

詳細な募集要項につきましては、固まり次第、事務局を通じて改めてご案内いたします。この歴史的建造物を未来へ繋ぐための第一歩として、皆様の温かいご支援とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

松島：先日の実行委員会では「途中でやめられないのではないか」「5000 万円集めても次の段階に進めなかったらどうするのか」といった厳しい意見が飛び交いました。しかし、最終的には「腹を括ってやるしかない」という結論に至りました。まずは「残す」ことを目標に活動を進めますが、将来的にどのような形で保存・活用するかは、今後の大きな課題で、様々な可能性を模索していきたいと考えております。

安藤：文化財として残す方向性はあるか。

市長：文化財としての取り扱いについて調査研究を進めます。

尾関：多治見市では、文化財的価値が認められた宗教施設に対し、修繕等の補助を行っている。修道院も将来的に文化財として認定されれば、同様の支援が期待できる。しかし、現段階はまだ調査フェーズであり、まずは実行委員会を中心に活動を進めるのが妥当と考える。

北高同窓生にとって、修道院は校舎や虎渓山と一体となった「心の故郷」である。宗教的な意味合いを超え、我々の思い出の風景に欠かせない存在。その喪失感は計り知れない。

過去、虎渓山が火災に見舞われた際、最初に寄付活動を行ったのは北高生であったと、南禅寺の中村雲峰様から伺った。その精神を受け継ぎ、今回の保存活動にも同窓会として積極的に関与していくべきだ。現時点では難しいかもしれないが、将来的には同窓会が実行委員会に参加する方向で検討していただきたい。この活動は、我々同窓会が果たすべき重要な役割であると確信している。

会長：

1. 協力量針の提案

先ほど、高木市長よりご説明がありました多治見修道院の耐震調査費用に関する寄付金募集について、北辰会同窓会として全面的に協力していく方針を提案いたします。本役員会において、この方針についてご審議いただき、ご承認いただきたく存じます。

2. 具体的な協力方法（案）

- ・ 情報共有の徹底：実行委員会が募金を開始するタイミングに合わせ、各学年の代表理事を通じて全会員に情報を速やかに伝達します。来年 2 月という期限を考慮し、同窓会報（北信）の発行を待た

ず、先行して情報を共有することが重要です。

- ・ 同窓会からの直接寄付：個人からの寄付を呼びかけるだけでなく、北辰会同窓会本体からも、例えば 100 万円、200 万円といったまとまった額の寄付を行うことを検討してはどうかと考えております。この件については、募金の進行状況を踏まえ、次回の 9 月役員会で正式に提案し、決議を諮りたいと存じます。
- ・ 寄付状況の把握と誤解なき広報：同窓会経由での寄付の流れなど貢献度を可視化できる仕組みを検討しつつ、今回の募金はあくまで「調査費用」であり「保存が決定した」という誤解を生まないう、広報には細心の注意を払う必要があります。

3. 今後の展望

今回の募金は、将来的に必要となる可能性のある、より大規模な保存費用の募金活動への第一歩です。まずは、今回の調査の趣旨を正しく理解し、ご協力いただける方を一人でも多く集めることが肝要です。

4. 決議

以上の点を踏まえ、本役員会として、修道院の調査費用募金に協力することを決議したいと思いますが、ご異議はございませんでしょうか。

(異議なしと確認)

では、本件については同窓会として全面的に協力することで決定いたします。

市長：第 2 回実行委員会以降、マスコミを通じて取組みスタートする予定。

会長：積極的に取り組むということでよろしいか。

伊藤：どのような取組みを想定しているか。

会長：実行委員会の情報を各学年幹事を通じて全会員に周知に協力する。おのおの寄付すると北高同窓会からの寄付金額がわからないので、把握できる仕組みが欲しいところ。

今若：この取組みのリミットは。

松島：この寄付事業は R8.2 末が目途。その後の動きは神言会に確認をとりながら進めることになり、現時点では不明。

会長：会からの寄付事業も考えている。9 月本部役員会で諮ることも検討する。

(4) 広報委員会 委員長 小原隆浩 副委員長 溝口武

1. 同窓会報「北信」24 号の発行について

来年 2 月 1 日の発行を目指し、準備を開始しました。先日、印刷会社および広告担当者との第 1 回打ち合わせを完了しております。皆様からの積極的な情報提供をお待ちしております。

2. 掲載記事の募集

- ・ 「活躍する同窓生」コーナー：前回に続き、各方面で活躍されている同窓生を紹介します。自薦・他薦を問わず、特に今回は女性の活躍も積極的に取り上げたいと考えておりますので、情報提供をお願いいたします。
- ・ 「学年同窓会だより」コーナー：(R7.3)、14 回生 (R7.11)、34 回生 (R7.8)、19 回生の開催情報を把握しておりますが、これ以外で年内に同窓会を計画されている学年がございましたら、写真と記事内容をご提供ください。

(5) ゴルフ委員会 委員長 岩田政憲 副委員長 三宅信行

- ・ 日時：令和 7 年 10 月 25 日 (土)

- ・ 場所：愛岐カントリークラブ
- ・ 幹事：25 回生（幹事長：前田市朗様）

現在、開催案内および参加申込書の原案を作成済みです。過去の幹事経験者や関係者の方々との最終確認を経た後、速やかに同窓会ウェブサイト「北辰.jp」に掲載するとともに、各学年の取りまとめ役の方へご案内を送付いたします。

多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。奮ってご参加ください。

（６）情報委員会 委員長 千賀研治 副委員長 河合俊宏

各委員会、支部、学年同窓会は、会報の掲載記事とともにホームページへの掲載記事の作成もご検討ください。写真 1～2 枚、記事データを提供してください。

10 月 25 日開催のゴルフコンペ、および 11 月 17 日開催の永保寺清掃活動の案内を掲載します。

今後の予定として、広報委員会と連携し、各学年の同窓会開催報告などを随時掲載してまいります。また、多治見修道院の保存に関する募金活動についても、正式な決定事項があり次第、ウェブサイト上で詳細をご案内します。

（７）北辰会基金委員会 委員長 田中直樹

北辰会基金の一般社団法人化についてご報告します。

現在「一般社団法人 北辰基金」として設立準備を進めており、目的は「奨学金の募集・支給」および「同窓会活動のための研修会企画・開催」です。

登記完了後、正式に設立総会を開催いたします。基金は当初 5000 万円で発足しましたが、7 年間で約 1000 万円を使用しました。残額を元に、新たな法人として活動をスタートさせるべく、設立に向けて尽力してまいります。

安江：司法書士による定款認証が完了し、現在法務局にて登記手続き中です。6 月中には登記が完了する見込みです。新法人の役員は、理事に加藤文夫会長、尾関先生、鈴木満さん、監事には大森副会長が就任します。登記完了後、速やかに法人口座を開設し、田中委員長を中心に、実際の資金移管等の作業を進めてまいります。

尾関：MS 奨学金は今後、同窓会が運営主体となります。現在、一般社団法人化の登記手続き中ですが、本年 4 月の支給時期には間に合わなかったため、私が責任者として、校長先生からの推薦に基づき 3 名の生徒へ計 144 万円を支給いたしました。

当初 5000 万円で始まった基金ですが、現在は約 3900 万円となっています。この状況に対し、寄付者の鈴木様より、差額を補填して 5000 万円に戻した上で新法人へ移管したいとの力強い申し出をいただいております。法人設立を急ぎ、円滑な引き継ぎを行いたいと考えております。

最近、海外在住の卒業生から「遺産の一部を同窓会に寄付したい」とのお問い合わせもいただいております。こうした温かいご支援に応えるためにも、しっかりと受け皿（新法人）の早期設立が重要です。今後、奨学金の支給対象などについては、新法人設立後に改めて検討してまいります。

会長：北辰会基金について、現時点で決定しているのは「MS 奨学金の継続」のみです。その他の事業や運営方針については、今後、本部役員会で慎重に審議し、決定事項を実行してまいります。法人が設立された暁には、この基金が永続的に活動できるよう、皆様には広く寄付を呼びかけていただきたく存じます。基金の安

定的な運営に向け、会員皆様の積極的なご協力を心よりお願い申し上げます。

(8) 本部事務局 事務局長 小玉淳

1) 同窓会本部の会議運営

- ① 3/16 総会・懇親会の通知、出欠とりまとめ、資料調製、議事録作成、HP 掲載
- ② 6/15 第 1 回本部役員会の開催と運営、資料調製

2) 会員名簿の調整

① 会員の名簿情報の更新

住所変更など異動情報を下記までご連絡ください。

A. 異動連絡フォーム <https://forms.office.com/r/vG6TFTGHtU> A. 異動フォーム▲

B. 本部事務局 E-mail : takitadoso-idou@yahoo.co.jp (専用アドレス)

C. 公式ホームページ URL : <https://北辰.jp>

D. 多治見北高校 渉外担当 後藤浩利先生 E-mail : p91359@gifu-net.ed.jp



② 新規名簿登録

R7.3 卒業の 254 人の新入会員の名簿情報を登録しました。

③ 管理委託

会員の情報管理は(株)サルトに委託 (R1～R10) しています。

R10 に新たな同窓会名簿作成し、委託継続を計画しています。

3) 令和元年発行の 60 周年記念の会員名簿を販売しています。

販売価格 : 3,600 円 (郵便料金・振込手数料は実費ご負担ください。)

【名簿概要】1 回生 (S36 卒) ～ 59 回生 (H31 卒) 掲載者数 18,741 人

※販売対象は同窓会員のみ、名簿情報と照合のうえシリアルナンバーで管理しています。

4) 学年同窓会の開催サポート

同窓会を企画する学年幹事は本部事務局へご相談ください。会員情報の提供のほか、宛名印刷や案内文書の発送 (有償) など同窓会の開催を支援します。

【サポートの種類】

A : 最新の名簿情報のみ提供 (無償)

B : A+宛名ラベルの作成 約 6 千円

C : A+往復はがきの版下作成、校正対応、印刷、発送 約 5 万円

D : A+案内状と往復はがきの版下作成、印刷、折り、封入封緘、発送 約 7 万円

【サポートの実施状況】

- ① 34 回生 (代表 伊藤匠・R7.8 開催予定) サポート A

4. 支部

(1) 東京支部 会長 今若恒幸

第 34 回総会・懇親会を以下のように開催します。

日時：11 月 29 日（土）13:30-16:30

場所：グレースバリ銀座

〒104-0061 東京都中央区銀座 6 丁目 1 3-1 6 パセラリゾーツ銀座店 B 3 F

講演：世界に向けた「美濃焼」のリブランディングが始動 ～ 全ての陶磁器は美濃に還る～

年金積立金管理運用独立行政法人（GPIF）理事兼 CIO、テスラ社外取締役などの要職を歴任し、2020 年より国連特使（革新的ファイナンス・持続可能な投資担当）を務めた水野弘道氏が、「美濃焼」のリブランディングに取り掛かりました。東濃地区から県や国までをも巻き込んだ壮大なプロジェクトです。

その名も、「美濃サステナブルセラミック」。東濃の陶磁器が潜在的に持つ高い技術力と芸術性の再認知と商品化、そして東濃を基盤として世界で戦える若者の育成が始まります。国内シェア 60%を誇りながらブランドイメージが低い美濃焼を「サステナブル・セラミックス」として世界に発信する壮大なプロジェクトについて、仕掛け人自らが語ります。グローバルに活躍されてきた水野氏ですが、近年の国際情勢の変化から、現在は地元・東濃への貢献に情熱を注いでおられます。講演では、このリブランディング計画の実現可能性や具体的な展望について、深く切り込んでお話を伺いたいと考えております。

皆様のご参加を心よりお待ちしております。

水野弘道 氏（24 回生）

Good Stewards Partners CEO、LiveWire Group 社外取締役、MSCI CEO 特別顧問これまでに、国連特使、年金積立金管理運用独立行政法人理事兼最高投資責任者、仏ダノンミッション委員会委員、京都大学 iPS 細胞研究所特任教授、経済産業省参与、テスラ社外取締役、コラーキャピタルパートナー等を歴任

(2) 関西支部 会長 粕谷武志 事務局 富田悦子

第 31 回総会・懇親会を開催しました。

日時：令和 7 年 6 月 8 日（日） 午前 11 時 30 分～14 時

場所：がんこ高瀬川二条苑

講演：水野尚之先生（みずの なおゆき、13 回生）

神戸女子短期大学特任教授、京都大学名誉教授「かくも長く英語に関わりて」



1. 関西支部総会の開催報告

新体制で迎えた初の総会は、当日まで司会や乾杯の音頭が決まらないなど、手探りの運営となりました。しかし、少人数ならではの和気あいあいとした雰囲気の中、本部や東京支部からも多くの皆様にご参加いただき、活発な交流ができました。

2. 記念講演について

50 年以上にわたり英語一筋で研究を続け、ニューヨーク市立大学への留学経験もお持ちの水野先生より、その学者人生について深く、示唆に富んだお話を伺うことができ、大変勉強になりました。

3. 来年度の総会について

例年、兵庫・京都・奈良・大阪の持ち回りで開催しており、来年は奈良を検討しておりましたが、まだ確定には至っておりません。来年も楽しい総会にしたいと考えておりますので、飛び入りでのご参加也大歓迎です。皆様のお越しを心よりお待ちしております。

5. 令和 7 年度事業スケジュール

- 6 月 15 日 第 1 回本部役員会 ※3 の倍数月の第 3 日曜日
- 6 月 8 日 関西支部総会
- 9 月 21 日 第 2 回本部役員会
- 10 月 日 PT フォーラム
- 10 月 25 日 北辰会ゴルフコンペ
- 11 月 16 日 虎溪山 秋のボランティア清掃活動と講演会
- 11 月 29 日 東京支部総会

12 月 21 日 第 3 回本部役員会
2 月 日 北辰 24 号の発行
3 月 15 日 令和 7 年度総会

会長：

1. 周年記念事業の検討開始

本同窓会は創立 68 年を迎え、間もなく 70 周年という節目を迎えます。過去には 50 周年で「北信の森」整備事業、60 周年で会員名簿作成といった記念事業を実施してきました。

2. 今後の課題と提案

70 周年事業を実施するならば、そろそろ具体的な検討を始める時期です。事業内容はもちろん、60 周年以降更新されていない会員名簿の改訂なども含め、多角的に議論する必要があります。

3. 皆様への協力依頼

つきましては、役員の皆様には、今後の座談会などの機会に、周年記念事業について積極的にご意見をいただきたく存じます。予算等の制約もありますが、皆様と知恵を出し合い、実りある事業を計画していきたいと考えておりますので、ご協力をお願いいたします。

資料1

令和7年度多治見北同窓会本部役員名簿

R7.6.15時点

役職	回生	卒年	氏名	委員会 等	6/15役員会	6/15懇親会
1 名誉会長	1回④	S36	可児 勝			
2 名誉会長	2回①	S37	尾関 恵一		○	×
3 名誉会長	5回④	S40	酒井 忠造		×	×
4 名誉会長	12回④	S47	伊藤 恒一		○	○
5 名誉会長			田中 誠二	学校長	○	○
6 特別顧問			高木 貴行	多治見市長	○	×
7 会長	14回②	S49	加藤 文雄	会長	○	○
8 筆頭副会長	14回⑥	S49	大森 伴樹	会長代行	○	○
9 副会長	15回②	S50	小林 昌臣	総務委員長	○	×
10 副会長	17回⑥	S52	春田 宣康	財務委員長	○	○
11 副会長	21回⑧	S56	飯田 道広	事業委員長	○	○
12 副会長	27回①	S62	小原 隆浩	広報委員長	○	○
13 副会長	14回⑦	S49	岩田 政憲	ゴルフ委員長	○	○
14 副会長	23回⑤	S58	千賀 研治	情報委員長		
15 副会長	19回⑦	S54	田中 直樹	北辰会基金委員長	○	×
16 会計管理者	14回③	S49	安江 雅隆	会計	○	○
17 事務局長	34回⑥	H6	小玉 淳	事務局	○	○
18 監事	12回②	S47	五島 達明	監査	○	○
19 監事	12回③	S47	古川 義之	監査	○	○
20 顧問	7回①	S42	鈴木 正夫	顧問		
21 顧問	12回④	S47	塚本 省二	顧問	○	×
22 東京支部会長	24回⑧	S59	今若 恒幸	支部会長	○	○
	19回	S54	柳澤 敦子		○	○
23 関西支部会長	13回②	S48	粕谷 武志	支部会長	○	×
24 理事	15回④	S50	水野 一正	総務副委員長		
25 理事	17回②	S52	安藤 正彦	財務副委員長	○	×
26 理事	18回②	S53	三宅 信行	ゴルフ副委員長		
27 理事	21回⑧	S56	松島 祥久	事業副委員長	○	○
28 理事	24回③	S59	河合 俊宏	情報副委員長	×	×
29 理事	28回②	S63	溝口 武	広報副委員長	○	○
30 理事	13回⑥	S48	渡辺 哲郎	事業	○	○
31 理事	12回⑦	S47	平井 康之	ゴルフ	×	×
32 理事	12回②	S47	古田 定昭	事業	×	×
33 理事	12回④	S47	柘植 宏一	広報	×	×
34 理事	12回⑤	S47	野口 智夫	広報		
35 理事	12回⑥	S47	小木曾 祐一	広報		
36 理事	12回⑦	S47	鈴木 喜晴	総務	○	○
37 理事	13回③	S48	佐藤 能博	広報	×	×
38 理事	15回⑦	S50	篠原 一行	事業	×	×
39 理事	16回③	S51	伊藤 守	広報	×	×
40 理事	18回①	S53	吉川 厚志	広報	×	×
41 理事	18回⑤	S53	曾根 敏治	事業		
42 理事	19回①	S54	加藤 健治	広報	×	×
43 理事	23回③	S58	梶田 暢克	事業	×	×
44 理事	23回③	S58	土屋 早苗	情報	○	○
45 理事	24回③	S59	伊藤 香代	事業		
46 理事	24回③	S59	谷口 知子	事務局	○	×
47 理事	25回④	S60	佐藤 円一郎	広報		
48 理事	26回⑧	S61	大竹 正道	広報		
49 理事	28回④	S63	川俣 覚	広報	○	○
50 理事	33回①	H5	小玉 亜矢子	事務局	×	×
51 理事	35回⑥	H7	宮本 賢二	事務局	○	×
52 理事	45回②	H17	友江 惇	事業	○	○
53 理事	46回②	H18	井川 久美子	広報		
54 理事	46回⑤	H18	伊藤 祐輝	事業		
55 理事	46回⑥	H18	岡田 佑太	事務局	×	×
56 理事			後藤 浩利			
					出席	30
					欠席	13
						21
						22

神言修道会多治見修道院の概要と実行委員会設立の経緯等について

1 神言修道会多治見修道院について

- (1) 「修道院」とは、外界との接触を一切絶ち、自給自足を行いながら、厳しい戒律のなか修道生活を送る施設である。
- (2) 神言修道会多治見修道院（以下、「修道院」）は、昭和 5 年（1930 年）に建設された壮麗なバロック風建築物。木骨モルタル塗で、基礎ならびに地下の壁部分のみが鉄筋コンクリート造である。
- 建物の延坪は 1,000 坪ほどで、木造建築としては非常に規模が大きい。建物はコの字型で、正面向かって左側（西側）に教会の領域として聖堂があり、右側（東側）には修道院の領域として食堂や小室がある。2 階と 3 階（屋根裏）は修道士の個室群であり、地下室は中央の東西棟と東側の南北棟の下にある。
- (3) 修道院は、老朽化が著しく、修繕・維持のための多額の費用負担を継続できない。現在は、教会部分のみ使用しているが、建物の危険性から、大勢の人が長時間滞在する催しは禁止している。

2 実行委員会設立の経緯について

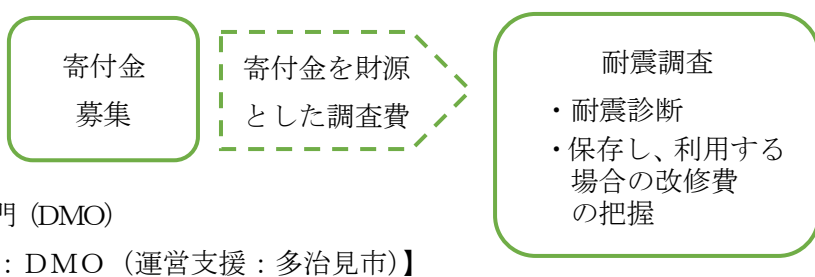
- (1) 令和 4 年 3 月、所有者である神言修道会は、今後 10 年のうちに修道院を解体する方針を決定した。
- (2) 修道院が、歴史的・文化的に価値が高い建築物であること及び多治見市民の心の拠り所・多治見市の宝物の一つとなっていることに鑑み、令和 5 年以降、（一社）多治見市観光協会等は、神言修道会と協議を重ねてきた。
- (3) 協議の結果、修道院を市民の財産として残すための検討に必要なデータを得るため建物耐震調査を実施すること、その財源として寄付金募集を行うこと及びこれらの取組を実行委員会形式で行うことについて、神言修道会の理解・了承を得ることができた。了承は得られたものの、現段階で神言修道会の解体方針に変わりはない。
- (4) 上記（2）及び（3）の取組趣旨に賛同いただいた構成組織及びメンバーにより、本実行委員会の設立に至った。

多治見修道院建物調査実行委員会

構成組織

- ①多治見商工会議所
- ②笠原町商工会
- ③多治見青年会議所
- ④多治見市文化振興事業団
- ⑤多治見市観光協会まちづくり部門（DMO）
- ⑥多治見市

取組内容



3 実行委員会の取組内容について

- (1) 建物耐震調査費用の財源として寄付金を募集する。 目標額：5,000万円
内訳：①耐震調査費用、図面作成、耐震診断 約2,200万円
②耐震改修実施設計 約2,000万円＋α（意匠により金額異なる）
※構造耐力計算上、木造はIw値1.0以上となるよう設計
※調査結果により改修不可も考えられる。
- (2) 建物耐震調査の結果（改修費用規模等）から、修道院を市民の財産として残すことができるか、残すために必要な事項、残した場合の活用方法等を検討する。

【参考】多治見修道院の活動・修理等に関する履歴

時 期	内 容
昭和5年12月	多治見修道院を建設。司祭修道者と法人会員の養成活動を開始。多治見教会が修道院内に併設。
昭和8年	ブドウ栽培を開始
昭和21年	敷地内に修道院墓地を設置
昭和22年	アメリカ・ボストン市からパイプオルガンが寄贈
昭和24年12月	司祭養成機関、南山学園運営母体が名古屋に移転。多治見教会が多治見市本町7に移転。
昭和31年	大聖堂の壁画・脇祭壇（モザイク・チップ画）を改造制作
昭和34年9月26日	伊勢湾台風によりパイプオルガンに被害
昭和43年	十字架のイエス・ベネディクト修道会の女子修道会が生活を開始
昭和50年	十字架のイエス・ベネディクト修道会の女子修道会が千葉県に移転
昭和51年	修道院の取り壊し方針を決定
昭和52年	多治見青年会議所が修道院修復支援活動を開始
昭和53年7月	多治見教会が修道院に移転。修道院支援協賛でバザーを開始。大聖堂を使用不可とし、本館2階食堂を改装しミサを実施。
昭和54年12月	屋根瓦と外壁の全面修理を実施
昭和59年6月	聖堂正面玄関にカリヨンを設置
昭和61年11月	パイプオルガンを修理。修道院設立60周年記念行事を開催。
昭和63年3月	修練棟を開設
平成元年4月	ログハウス3棟を建設
平成2年1月	公衆トイレを設置
平成2年4月	多治見市により景観PR事業「修道院ライトアップ事業」を実施
平成15年	ブドウ栽培・醸造を名古屋AJUに移管